

令和4年度 学校評価 自己評価書(1学期)

1 学校の重点目標

「仁(思いやり)の心、豊かな創造力、健やかな体」をもち、自ら学び、主体的にたくましく生きる力を備えた児童生徒の育成

- 自らを律し、協調性に富んだ心豊かな生徒を育てる。
- 自ら進んで学習に取り組み、創造性豊かな生徒を育てる。
- 健康な心身をめざし、自らの目標を定め、最後までやり通す生徒を育てる。

2 課題と改善策 (A:十分な取組を行っている B:重点的な取組を工夫したい C:早急に取組を具体化させ、改善を図りたい)

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
心の教育	1 全教育活動を通じた道徳性の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の特性を理解し、個々に寄り添った指導・支援が行えている。 ・道徳の授業を学級経営のひとつと捉え、大事に取り組んでいる。 ・一人一人に役割を持たせたり、活躍する場面を設定したりして、成長を促す活動がうまく機能している。 ・一人一人の学びを支援するために、児童生徒の実態について全職員で共通理解するように努めることができている。 ○児童生徒の特性に応じた活動の精選及び工夫が必要である。 ○議論する道徳を進める上では、少人数の指導は難しいところが多いが、一人一人が多様な考え方に接していけるような工夫が必要である。
	2 「心の教育の日」の工夫・充実と家庭・地域との連携強化		
	3 「道徳科」の充実		
	4 地域の自然や文化・伝統に親しむ体験活動の推進		
	5 人権尊重の意識に立ち、一人一人を大切に教育の充実		
	6 朝のボランティア活動、挨拶運動、花いっぱい運動の推進		
学力向上	1 基礎的・基本的内容の確実な定着を図る指導	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修での共通実践、ICT研修、その活用等により、充実した授業が行えている。 ・児童生徒の実態に合わせて、授業の工夫改善に取り組みながら、学力向上への取り組みにも努めている。 ・個別指導が授業の中でうまく取り入れられている。 ○基礎基本の定着を長期的に、授業の工夫改善や家庭学習の支援を図る。 ○保護者と密に連携を図りながら、児童生徒一人一人の目標を明確にし、可能な限りの学力向上を目指していく必要がある。
	2 思考力・判断力・表現力を育成する指導の充実		
	3 各種学力調査結果の活用		
	4 「共通実践事項」を基盤にした指導法の工夫改善		
	5 家庭と連携した家庭学習の充実		
	6 教科指導におけるICT機器・タブレットの利活用の推進		
生徒指導	1 児童・生徒理解に基づくきめ細やかな指導	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に正面から向き合い、話す機会を大事にしている。 ・各学年の実態に応じて、細やかに連携しながら指導が行われている。 ・小中連携の共通実践事項である、親子読書の日の設定の取り組みでは、小・中学校共に毎月一回『家庭で読書の日』を設定することが、少しずつ定着してきている。 ○不登校児童生徒への対応のあり方について、保護者との連携、学校内での共通理解、小中連携した対応策についての話し合いの場をもつ必要がある。 ○担任だけでなく、チームとして取り組む役割分担を明確にしていく必要がある。
	2 いじめ・不登校の未然防止		
	3 自他の尊重・生命尊重に関する指導		
	4 学校・家庭・地域と連携した基本的生活習慣の確立		
	5 読書指導の充実		
	6 発達段階に応じたキャリア教育の充実		
	7 特別支援教育の充実		
体力向上	1 体力・運動能力の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな保健指導が児童生徒の習慣に意識づけされ、校内での感染症まん延がなくてよかった。 ・生徒の体を動かすことへの意欲が上がっていると感じる。 ○基本的な生活習慣が定着していない家庭との連携を図りたい。 ○学校生活での安全指導で、安全への意識向上に努めたい。
	2 保健指導や安全指導、給食・食育指導等の健康教育の充実		
	3 安全指導、危機管理の徹底		
	4 家庭と連携した望ましい生活習慣の確立		
特色ある学校	1 特色ある教育活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定された活動は、地域の協力の下、目標を達成することができた。 ・コロナ禍であっても、地域行事やあいご会の活動を工夫することで、保護者・地域と繋がることのできるようになってきている。 ○児童生徒数の減少や地域の高齢化を考慮し、活動内容を見直す必要がある。 ○児童生徒に、地域の一員であるという自覚と行動力を身につけさせたい。
	2 地域の教育素材を生かした活動の工夫		
	3 学校情報の積極的な発信		
	4 保護者・地域との連携強化と説明責任		
職員の資質向上	1 小・中合同による校内研修の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力・授業力向上に向けて、必要性のある内容の充実した職員研修が行えている。 ・児童生徒の実態に応じた授業展開をしようと授業改善に努めることができた。 ・職員同士の情報共有が常にされている。改善策の模索が小中交えてできている。 ○様々な分析等で、より深く児童生徒を理解し、授業力向上に活かす。 ○授業時間に学習内容が定着するように工夫する必要がある。 ○主体的で深い学びのために、ICTをどの場面でもどのように活用すれば児童生徒の学びが深まるか、さらに研修を進めていく。
	2 学級経営及び教科等の指導力・授業力の向上		
	3 情報教育の充実に向けた研究と情報管理の徹底		
	4 新学習指導要領を踏まえた教育課程編成と完全実施		
	5 信用失墜行為等の禁止		
	6 校務の適切化・効率化及び適正な勤務時間管理と健康増進		
教育環境	1 清掃作業、美化活動の徹底	B	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面で師弟同行で作業を行うことができている。 ・計画的、意図的な設営や掲示がなされている。 ○古くなった備品等の修理及び廃棄処理、施設設備等の修繕等を計画的に行う。 ○健康面に配慮しながら、節電等を行う工夫が必要である。
	2 計画的・意図的な設営の工夫・充実		
	3 学校版環境ISOによる取組の充実		

3 2学期に向けての取組

- 児童生徒の心身の健康と安全を第一に考えながら、衛生面、環境面を整え、あらゆる活動の事前準備や内容の工夫、事後の振り返りを大切によりよい活動になるよう取り組んでいきたい。
- 個に応じた学習指導及びICT機器を有効に活用した授業や、タブレット等を用いた家庭学習など、学習内容の定着に努めたい。また、行事等においても明確な目標をもたせ、個々の良さを発揮させ、自己肯定感や達成感を得られるように工夫していきたい。